

平成27年度

公共事業事後評価

床上浸水対策特別緊急事業
広域基幹河川改修事業
一級河川 戸沢川

河川砂防局 河川海岸整備課

事後評価実施箇所 位置図



航空写真



過去の浸水被害の状況



H16 台風22号による浸水被害

| 総雨量 | 最大時間雨量 | 浸水面積 | 床上浸水 | 床下浸水 |
|-------|--------|------|------|------|
| 293mm | 44mm | 40ha | 79戸 | 37戸 |

平成16年10月台風22号による浸水被害状況



他事業との連携

戸沢川流域の浸水被害は広範囲に渡っていることから、各管理者が連携して対策を行うことで、流域全体の治水安全度の向上に取り組んだ。



調整池、内水排除ポンプ設置【伊豆の国市】



普通河川長岡川河川改修【伊豆の国市】



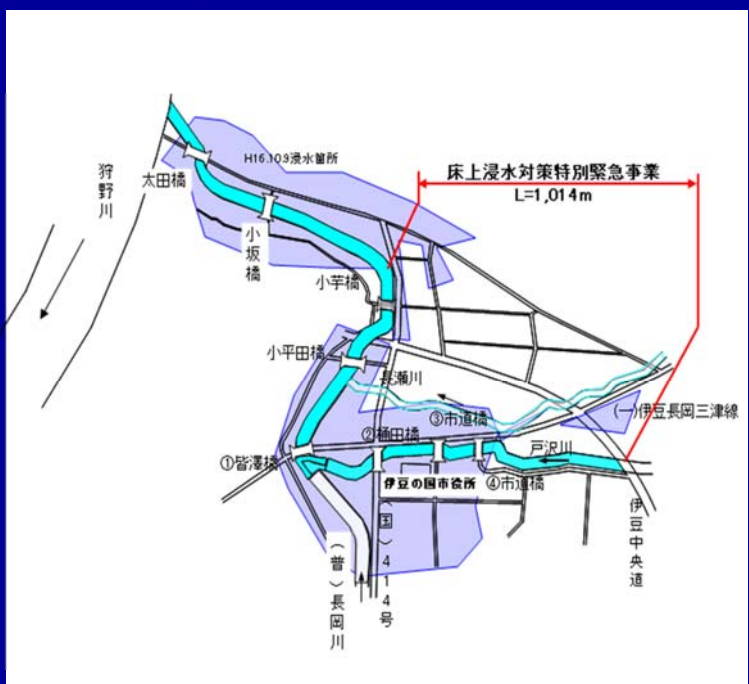
小坂排水機場ポンプ増強【国土交通省】



事業概要①

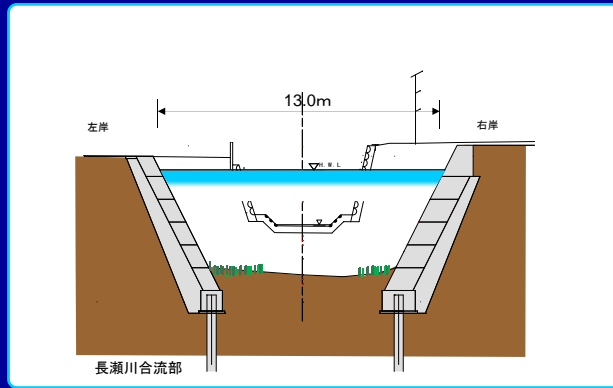
概略平面図

| | | |
|------|------|----------------------|
| 計画期間 | 当初 | 平成18年～平成22年度 |
| | 実績 | 平成18年～平成22年度 |
| 事業費 | 当初 | 31.814億円 |
| | 実績 | 34.625億円 |
| 事業量 | 掘削工 | 20,500m ³ |
| | 護岸工 | 842m ² |
| | 橋梁工 | 4橋 |
| | 用地買収 | 4,929m ² |
| | 物件補償 | 43件 |



事業概要②

横断図



川幅は約2.5倍に、
断面積は約3.5倍に拡大

改修前・改修後の比較



自然環境への配慮および河川利用

改修前



改修前は、コンクリートで覆われ、水生植物や鳥類等にとっては厳しい環境でした。

改修後



改修後は、水生動物や鳥類等の生息場となっている。水際植生や河道周辺植生の現存レベルの確保に努めました。

自然環境への配慮および河川利用



堤防天端景観舗装(地元住民や観光客が利用)



新たな水辺環境の創出(魚の放流)

事業効果

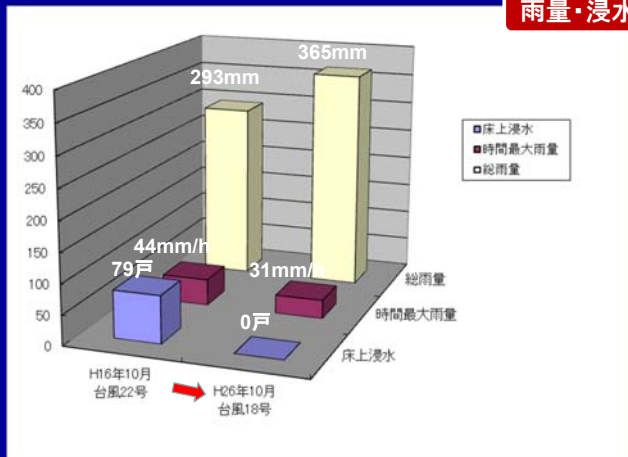
平成26年10月5日～6日、静岡県に上陸した台風18号による大雨は県内各地に大きな浸水被害をもたらした。
戸沢川では河川改修の効果により水位が低減され、床上浸水被害は発生しなかった。

平成26年10月6日10時頃
出水



台風18号の雨量(伊豆の国伊豆長岡観測所)
時間最大雨量31mm、総雨量365mm

雨量・浸水戸数



事業概要②

費用対効果

総便益 = 15,810百万円

- ・被害軽減期待額 15,578 百万円
- ・施設残存価値 232 百万円

総費用(C) = 3,831百万円

- ・事業費 3,327 百万円
- ・維持管理費 504 百万円

※平成27年度換算価値

費用対効果(B/C) = 4.13

事業効果③

事業実施による環境の変化

- ・各公共公益施設の充実や周辺道路の整備、住民交流の活性化が推進
- ・道路の冠水リスクが大幅に軽減され、緊急輸送路や順天堂静岡病院へのアクセスが容易になり、防災機能が十分に発揮



事業を巡る社会経済情勢等の変化

①土地利用高度化の進展

当流域は、伊豆の国市役所本庁に近く、公共公益施設、密集市街地および温泉観光地として、経済発展とともに都市化が進み、水害が発生した場合の周辺地域への影響が増大している。

②人口および世帯数の推移

伊豆の国市の人口は、平成7年から徐々に減少しているが、65歳以上の人口割合が増加しており、浸水被害発生による要援護者の危険度が増大している。

対応方針(案)

- ・ 計画と同程度の降雨発生時には、治水効果の発現が期待できる。
- ・ 遊歩道や休憩スペースの整備により、温泉地における新たな憩いの場としての活用が進んでいる。



事業効果は十分に発現しており、改善措置の必要はない。

今後の対応

- ゲリラ豪雨などの想定外の降雨に対し、ソフト対策も合わせて推進する。
- 河川の適切な維持管理に努めるとともに、地域住民と連携した多自然川づくりや協働による河川管理(リバーフレンドシップ制度)を進める。
- 目標と同規模の降雨がまだないことから、引き続き降雨時の資料収集に努め、効果検証を行っていく。